

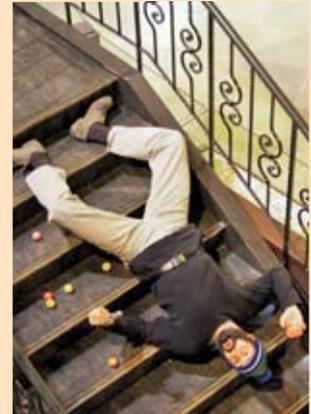
国際交流員マシアスのコラム ドイツの暮らし



今年も終わりに近づき、寒さも厳しくなってきました。ドイツと日本では冬の過ごし方で異なる点がいくつかあります。まず、ドイツ人はホッケイコをあまり使いません。私も日本に来て初めてホッケイコを使いました。また、ドイツの家は断熱材や複層ガラスを使用しているため、冬でも夏でも室内の気温にあまり変化はありません。だから、ドイツでは冬でも掛布団1枚で寝る人が多いです。

この他にも、ドイツと日本の建物では大きな違いがあります。それは、ドイツの家には必ず地下室があることです。その地下室では洗濯したり食べ物を保管し、時には日曜大工をするために使われています。

今こうしてドイツのことを考えているのは、ドイツのことを少し懐かしく感じているからかもしれません。特に冬、クリスマスの時に私の故郷であるドイツのケルンのことをよく思い出します。しかし、今では下野市も私の第2のホームになってきています。そんな下野市のみなさんに、あるケルンの伝説をご紹介しますと思います。実はその伝説では地下室が重要な役割をしているのです。



Heizenmannchen (ハインツェルメンチェン／小人)
18世紀、ケルンには「Heizenmannchen」という小人達がいました。その小人達は優しい性格で、夜中ケルンの人々の家にこっそりやってきて、人間が日中終わらなかつた仕事を代わりに最後までやってくれました。毎晩誰にも気づかれないようにやって来て、仕事が終わったたら帰って行くのです。ケルンの人々はそんな小人達の行いに、毎晩感謝をしながら眠りにつきました。

しかし、ある仕立て屋の奥さんは好奇心旺盛な人だったため、その小人達を一目見たいと思っていました。ある日、その奥さんは地下室へ下りる階段の上に、小さな豆をいくつか置いておきました。そして夜になり、小人達が来て階段を下りる時、みんな小さな豆のせいで転んで落ちてしまいました。その様子を見ていた奥さんは思わず小人達を笑ってしまい、悲しくなった小人達はすぐに帰ってしまいました。翌朝ケルンの人々が起きると、いつもと違い昨日の仕事が残ったままでした。小人たちはどこかに行ってしまったのでしようか、その次の日も仕事は残ったままで、ケルンの人々は自分の仕事を最後までやらなければならなくなりました。

この伝説はとても有名で、ケルンの人ならみんな知っています。この伝説を忘れないようにするために、ケルンの有名な大聖堂の隣に「Heizenmannchen-Brunnen zu Köh」という、小人達の絵が彫られた噴水を作りました。

みなさんはこの伝説を読んでどう思いましたか？みなさんの意見をメールや下野市国際交流協会のFacebookで教えてください。楽しみにお待ちしております。

国際交流員イベント 第13回「ドイツの暮らし」 在住外国人向け日本語教室のご案内

下野市国際交流協会では、日本に住んでいる外国人を対象とした日本語教室を開いており、日本語講師ボランティアの方々からマンツーマンで外国人の方に日本語を教えています。教える日本語は、平仮名から日常会話、日本語検定試験に向けたものなど、外国人の方のニーズに合わせています。皆さまの周りで日本語を学びたいと考えている外国人がいらっしゃいましたら、日本語教室をご紹介します。

日時・場所

○グリーンタウンコミュニティセンター

土曜日 午前10時～11時30分

・午後7時～8時30分

日曜日

・午前10時～11時30分

○石橋公民館

土曜日 午後7時～8時30分

日曜日

・午後3時～4時30分

※石橋公民館は第3日曜日休講

受講条件

受講料は無料です。ただし、受講者には、下野市国際交流協会の会員になっていただきます(年会費1,000円)。

申し込み・問い合わせ先

下野市国際交流協会事務局

(下野市役所市民協働推進課内)

☎(40)55585

携帯電話
市ホームページ



■人口と世帯 (11月1日現在)
人口/60,189人 (-22)、男性/29,946人 (-12)、女性/30,243人 (-10)、世帯数/22,898世帯 (+7)

TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアを募集しています。ご協力いただける場合は総合政策課 ☎0285(40)5550 情報広報グループまでご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ

